

《江戸名所 霞ヶ関眺望》 歌川 広重

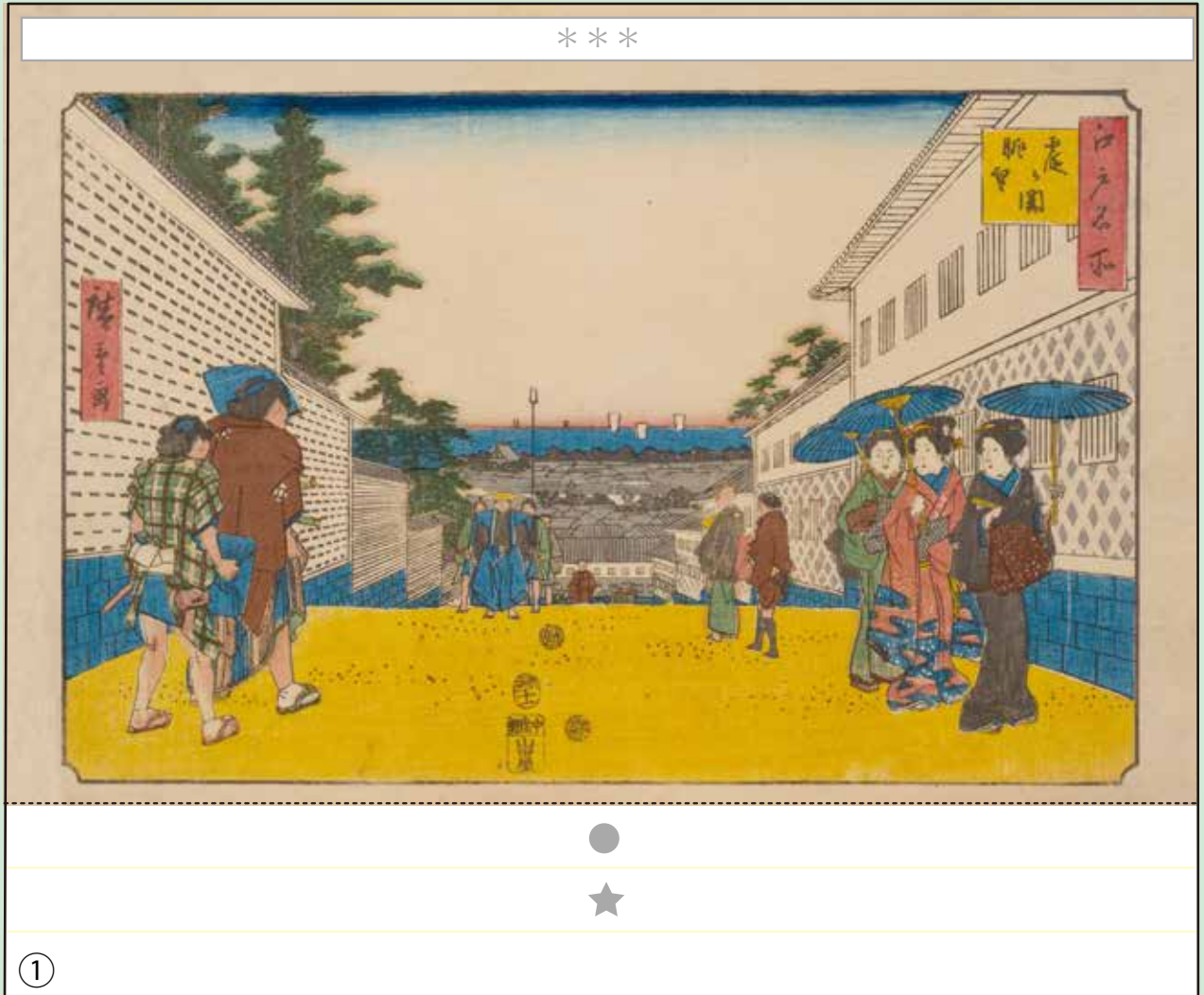
城西大学水田美術館蔵

シャドウボックス風 ペーパーアート

——	切り取り
-----	山折り
-----	谷折り

① 黒い線に沿って切り取り下部は谷折りする。

必要な道具…ハサミ、カッター、糊（木工用ボンド）、（ペンセット）、等
用紙が厚いため、ペンセットの先で折の筋をつける必要はないと折の曲げられます。



《江戸名所 霞ヶ関眺望》 歌川 広重 大判錦絵、嘉永6年（1853）城西大学水田美術館蔵

「霞が関坂」は、中世の頃、奥州街道の関所「霞ヶ関」が置かれた場所にある坂で、見晴らしの良さから景勝地として歌に詠まれるほどであった。江戸時代の頃には、大名屋敷が建ち並ぶようになり、諸国からの大名行列が行き来するなど活気のある場所で知られ、多数の錦絵の中にも登場した。

本図は、風景画や名所絵を得意とする歌川広重が坂の上から江戸湾を見下ろす構図で描いたもので、遠くの町屋の中に少し飛び出て見える屋根は築地本願寺である。道の中央には坂から上がってきた大名行列と思われる一行だろうか、道行く人々が道路の端に寄っている様子が見える。

②

緑色の部分を切り抜き、上下のりしろは山折りをしておく。
先に下部の●を①の●に貼る。(上部は後で)

④の天井部分に貼る (①側)



②



③

緑色の部分を切り抜き、上下のりしろは山折りをしておく。
先に下部の★を①の★に貼る。(上部は後で)

④の天井部分に貼る (②の次)



③



歌川広重《江戸名所 霞ヶ関眺望》

嘉永6年（1853）



切り抜く

城西大学水田美術館



①の底部分と重ねて貼る。

↑ここは折らない

④

- ④ 枠の中はカッターで切り抜く。3箇所山折りをしておく。下部は①の底の下に重ねて黒い部分を貼る。
②と③の上部ののりしろを④の天井に貼る。最後に上部の*を①に貼る。

歌川広重（うたがわ ひろしげ、1797年～1858年）

江戸時代後期に活躍した浮世絵師。街道が整備され、文物の往来が盛んになる中で起こった旅行ブームに乗じ、東京と京都を結ぶ東海道の全ての宿駅を描いた55図の浮世絵シリーズ「東海道五十三次」（保永堂版）が、空前の大ヒット。江戸時代後期の浮世絵師で、風景画を得意とし、「東海道五拾三次」「名所江戸百景」などのシリーズで広く知られています。

広重の浮世絵は近代西洋絵画に影響を与え、印象派の画家たちにも強い影響を及ぼしました。また、広重は風景画だけでなく、花鳥画や美人画なども手掛け、浮世絵界の重要な人物として評価されています。